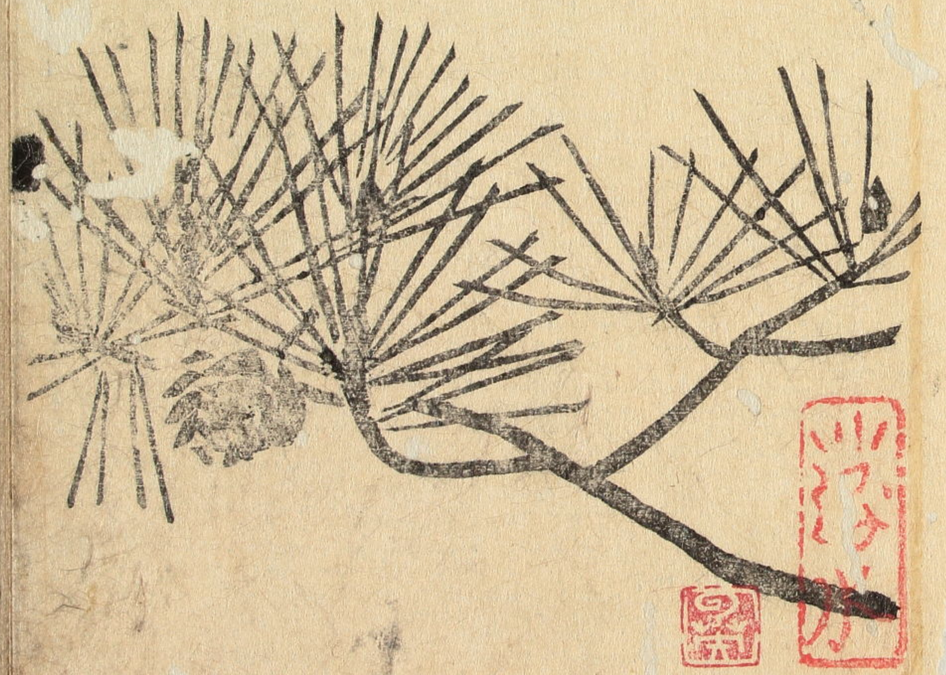
あけぼの草紙

聽亀庵

寛政三年

nanki

寛政
辛
亥



春興　聽亀葵

棹さす日ゝ景色ぞうらゝなる春の雪
うゝしき春の夜会谷ゝ高音鶯
暮遠し雨ゝ多き野辺の春
芝居ゝんゝる方半ば袖ゝ消ぬる
瀬ゝ穏る渕のうゝ春の舟

春興

朝東ぶや浦のもゝの松ぶゝ　熊三
辻番や大名小路ゝ雨　春香
山賤の松垣ゝ春日ぶゝ　綾友
免ゝゝん鳥の巻や春の雲　自珍
十日り十日のそゝをかく雉　芦江

山里や梅ゝ伴ふあるゝ　松洞

夜已晴てゝ芝立もれ茶摘哉　帰来

遥かもつゝす商を書ける　松鳥

鶯や一声三ゝ九二軒茶屋　木公之

白梅ゝ加賀ゆ衣打うゝけて雪隠　及鳥

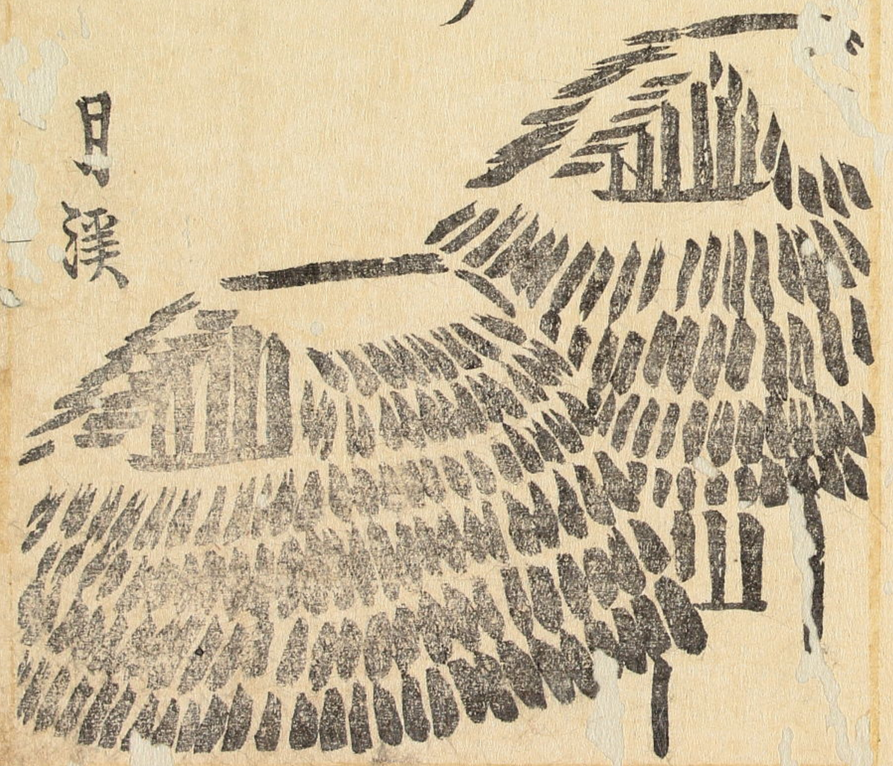
青柳や旭いろゝ乾池の面　南温

蘭廼

軒のつゝ

宁原町乃

雪とけや



月渓

青柳のとらへ　浪速東屋

ふひ
くやく

きもの〳〵

即興一折

若菜賣て野辺のけむを回風り　米松

ゆのさゝらなる市人の春　紫曉

日の氣も靜て雲ぢ小ぼるゝ　春坡

馬睡る木陰の下馬札のもと　松

簑投る胡蝶の篠を有明て　曉

高くて嘆き酒の酔ひ覚め　坡

待ひて強く琴琴も緒いかを　松

姫うつの香ばうふ繪中紙　暁

ばらばらと柏に音立てる通り雨　坡

千部寺ほとゝぎす啼　松

僧と化し御法と珠数繰り　暁

年寄りの声の高さら　坡

つゝ堪のひと方皆打冬ごもり　松

栗津の方や又軍あれ　暁

扱と合もいつの為の一筋　坡

既に名ばかりの紙ばかり　松

月もばうつまも弥生のいなかにて　暁

[illegible]

郊外吟　浪華

[illegible]の梅　眉山

旅意

朝起の眉[illegible]霞うゝ　文風

船出つう

波も

うらゝの

春[illegible]

[illegible]

春僊寫

僧正の
谷を
さしい
器の
もち

春坡

月溪

春興

南部

梅折て僧ゐるあり河内越　夜来
愛るの梯こ踏えうゑ山　平角

東都

清澄こ流吹ちゆ朧月　宗讃
髭つ〻ふ墨染の汁や猫の恋　楚山

皆興

在朝鮮

春雨やまるひう宮のさゝやき　眠鷺

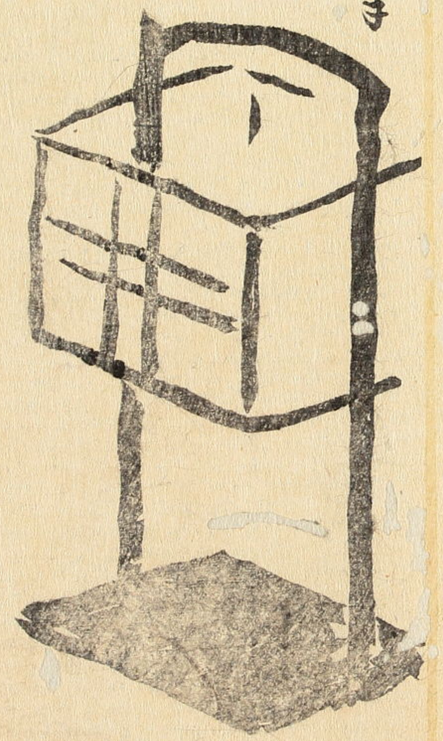
對馬

雨二日色てゝ五さとの柿ぬれ　賀瑞

江駒井

日の影やゆく春さうせの流　柏由

月次



引とる屏の
ゑこの猫のゑ

万容

海連

とりて

春の

むらくの

門

日禁士 芦牛

太平

春興　播州

紅梅と雪の雪を音うぶ　布舟

あら〳〵男のよわるを名てふ　糸桜　其扇

ちらむより落る椿のゆうぶ　露文

雪の雲をうるうてまの月夜かな　宇竹

神とふや二日三日の月のい徐　松溪

小はらゝゝ袖ぬれ〳〵ぬる　湛露

桟木もをゝこうまや春の中　雷丈

やふ入や美濃と近江のさゝり連　東明

まつ雲ふく春ゝ夕の雨ぬれ　其成

まつ雨しやふふふと海ゝ　露秋

ゝゝ新波澤の大社めぐりすまする

格無ゝ句を沼ゝやと長〳〵も

学るの旭ゝうゝ木の間ゝふ　東屋

池の水もや〳〵解氷　樗室

流のゝ簑者ゝ良のゝゝふゝ

仏誕の設を定めらるゝ　屋

菜の葉さゝ雪月やあるらん

厩の後ゝ呼る声あり　室

油つゝ冥途の使もうらうらし

旅つゝ孔雀の声帰いそぐ　居

幸ゝ雨雲雨もけつよ雨　室

以下略

崖卯写

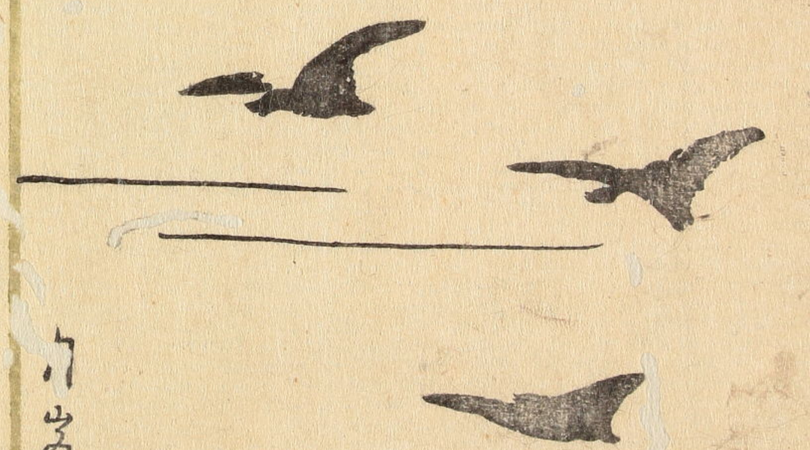
樓灘

二本公

梅のうつろふ鏡

拾ひ

芦雁



七種や

浪華　津輕

羅さらや故ひいきさくさ　支三

春興　浪華

春雨や琴抱かるる段ばしり　銀獅

春立や初る日のあたる　壽室

つくしの接木芽ぐくあり　井三

七日興

江孟昌埜

蒔てゝ国ひ大根の芽立ぶり　修々

ゆるぶ曇りの春の朝ちりけ　貞羽

埜を引て年ゝ紙ぶすゝ雲雀笛　素角

ちゝは迄や蘆の芽を掘る丁　雨柳

声なりゆゝ作白ひたり野　菊雄

大和路や馴ぬ中雛ゝ

春の雨　高砂右笑

春興

のどけさや都の海や鳰の店　不朽

袖つく美の小雪の消ぬる　一峰

三ヶ月やそろそろ朝ぐもり　東窓

江の上の月に物ゝし傾ひとり　孤秀

営る平燈の消ぬる　李皐

ゆつくりの雪は〜袖の雪を分　眉川

朝の月梅の梢を吹くなり　古塘

、

湖南　宇治

白鳥の沖ゆく見るや春の月　立来

梅若の念仏ゆかぬ春の雨　千影

雉子ぶくや横雲と夜を引離す　兎文

春興

湖南

渡妻い行まつ若し　忠信騏道

ぶくぶくと雨の音　慈同

、

池田

朝東風や梅のふちひを渡る舟　星府

猫の恋梅ちりの別ふる　龙言

り舟こ物りの宮の柳かな　竹外

春の夜の大きふ夏や涅槃像　田福

、

目ふかの花稀多村ふる梅つんす　管鳥

ふらふふ流ゆれのり弟ふふ　魯文

梅ふゆ式部ふ茶屋のう〜硯二蝶

伐るのふ

ふ

松の

椿木

春僊写

藝州

可友

ひとりの坂
夏の終り
ふかひしうふ

浪華
風卿

月芝

春興　浪華

揖れい大同二年　松の雲二柳

岩間よりとりくの小や、重霞　五雲

下萌乃そこ〻〻田の蛙哉　蝶夢

春眠不覚暁　仙臺

覚るや夏のうぐはす　東皐

皆興　江戸

まつ夜やりのうさぎの酒買　成美

、　上州

近寄ればのこる白うめの梅　雨竹

春興　山科　撰灘

早蕨や去年つまべくる狸穴　雀邨

初成の青のひ頭巾や朧月　千圭

、　城南林

麦の雪扇て油をちらひ麦子　下方

京へ出しかとうるさきより麦の日　麥子

ふる岩みてし　　醍醐

古器の榕こうもれ　百喃

皆興　　若州

海とりの梅くれなゐのとりの　鬼雀

梅濃みてし　　淀

年當のすくと歯てきた梅ふくび　氷壺

りの者乃
春
ちさきめ
紫
月

美雀

梅ふるる

月宮宮

室君や　日和　其答

うけ合ふ

雪の雪

斬下より舟をこゝへ

ちゝ酌をとりて長ゝ

ふゝ〳〵ぶま婦もゆゆと妻の旅　青牛

ひゝ〳〵日和〳〵めよう〳〵の袖　野晩

浦小丁売ゝむ迄ゝ友なひて

標ゝゝ〳〵翠　笹葉ゝゝ〳〵り　牛

月を見て詠うたの歌十首　牛

よ毎に受る彩波のうるはしき　晩

湖中の蓼麦穂波立て　秋まき　十

世のつりも都にめさ芦　〃

ちらちら波の一さし　晩

雨の中切〻濁てうるはしき　〃

とこしへの神輿を舟に移すなり　牛

兵部の烏帽子波に落ちる　晩

ひらひらの羽衣晴つ月の雲　牛

雲をとこのうの波

打ぬる剱今やと醉ひ覚て　牛

才子の巻用の子さてなさ　〃

二十五の春をうそぶく歌ごころ 晩

旨芹の香ばうる七種ゝ

うゝてゝ和田の岬ゝ至るあそ

ん華をけ〳〵ゝ立ち

春興

いろめうめ茜路ゆく傀儡師 呂蛤

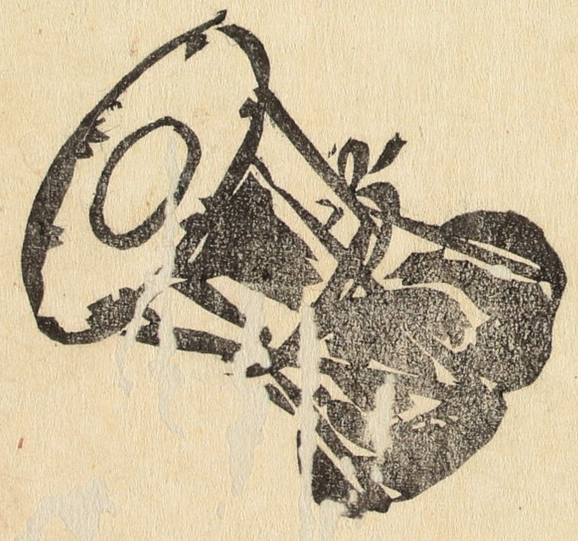
萬歳や

烏帽子の

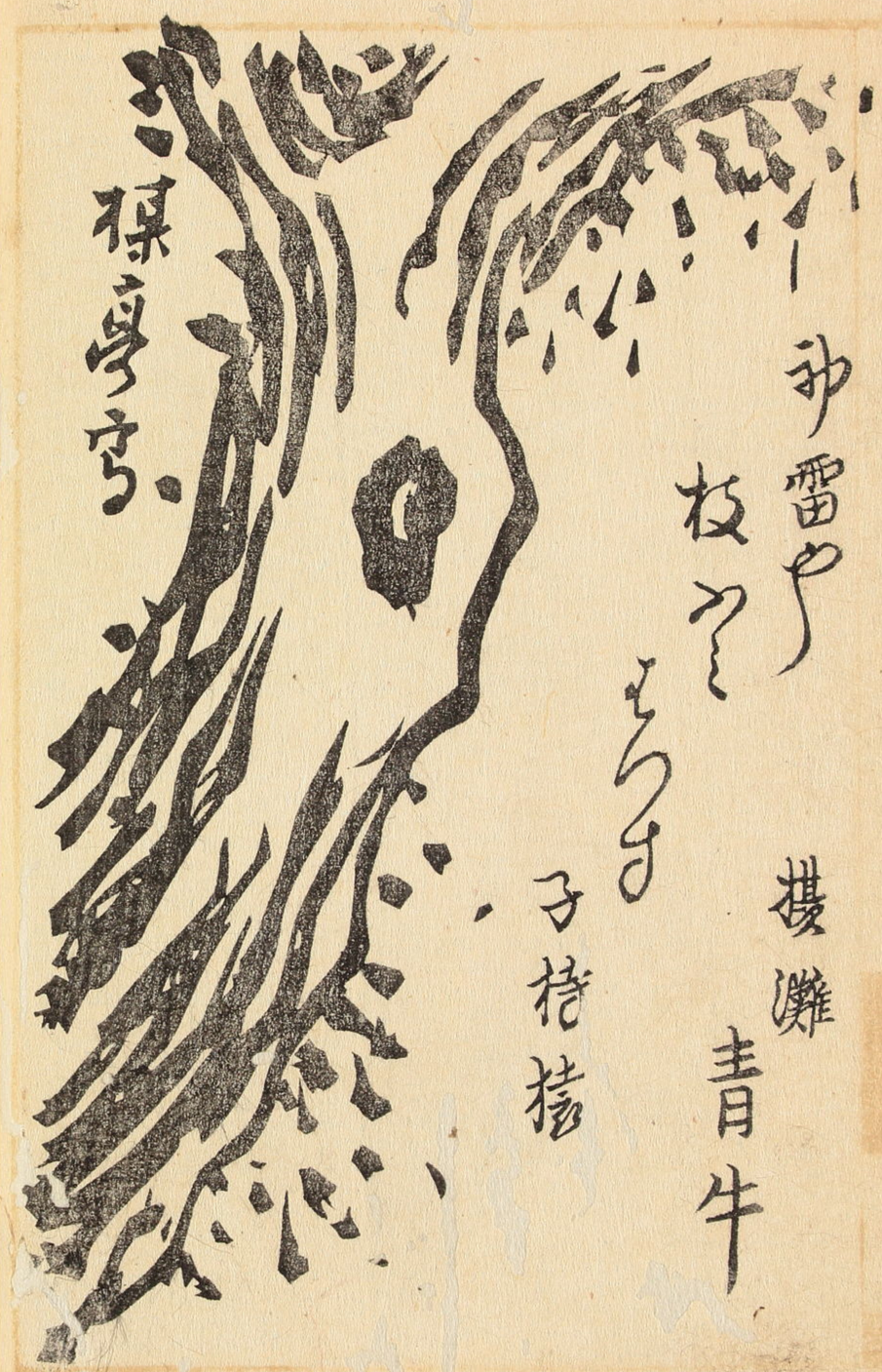
下乃

角ひゝひ

杜栗



春僊



初雷や　枝ぶりもよし　子持樹　　摸灘　青牛

春興

俳諧いせよりの梅　押月溪

押おりて書立ぬの通りの事　旧國　　浪速

ふひすの二羽鳴初音哉　定雅

皆興

宇治田原

傘さしてゆく人ひとり春の海　毛作

信州上田

暮方のたゝく日長し雨宿　雲帯

善光寺

水鳥の跳ねうつまきれるぶ　路人

子規庵

ひとり
のもり
小ゝ稀うす

之竹

あゝさのしら
梅はさきて日は
のんどりと
イタヽ老僧井我写
且書

春興

おのころや波うち寄るも春の中　蘭更

、

糸ぶ新色こそ拾ふ勢ひかな　青蘿

、

ワラ屋の梅ハらつさゝ抽の窓　暁臺

播磨

尾張

春興　　浪華

若草つゝと長閑なる角力や　仙興

胡蝶や花の曇り泡盛雅

空蟬乃綱や山吉の神さま　吾崖

うゝひすや婚礼の夜の明さまを　芝風

梅うゝ帳うけてあり道具市　嘯風

冬吟　　紫暁

初辺や市こゝろ〳〵古葦

水鶏なる池ゝ明て聖る番し

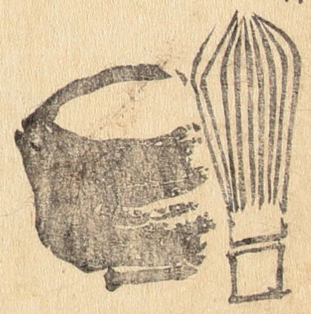
水月狸をつゝ筋の曇小雪

針供養子代うふ家の牡蠣や

おうゝ厩をまゝ夜の駒

日ゝを
春も月の海の
しらぬ　月
ゆくへ知らぬ雲さえて
たゝく火の
中と絞りし
ゆくへの雲
はるかなる　常子

太平宝



拙て
ほく
濱吉

冬　吟

在南部

中〳〵子鰹と〳〵牛の刀らん　重厚

、

兵庫

その初ふ色ふんと大根引　天艾

摸灘

寒月やこゝろさるゝある池の底　士川

冬吟　湖南

素吾吟やゞ遠の遠ひそ　蘭蕙

大根引始う乳の黒ミ　古道

鶺鴒の声も流れ浮木　而友

火棚ゆ人や夜舟のかゝり　親風

九鬼の寒りも狩る紙子　干雪

高砂　李冠

蓋人の踏うゑし　いろうこふ　義湖

九老図

冬吟

海の雪打もうりとゆりこ雪　桃睡

ゆもこもこ市の中　鈍雅

降る雪の海ゝ見ゆる山四ゝ　百池

冠者も懸掃ぎの都うゝ　可翠

和州

物の子は軒をつたふ雨の音　孤秀

、　湖南　加陽

傘うつて乾鮭ひとしもとの雪　梅亭

風やゝ砂のうねりのうつせ貝　兎文

南禅寺晩望

落る葉を追ひ切鐘のゝ余波　紫曉

冬吟并題恋　伊陟

初雪や蕎麦のふ作の泥炭　蘭芝

逢ぬしれぬる夜や足袋片寄ひ、

冬吟　播广

埋火やもゝ打消す鶏の声　東圃

やとりそ庭の居やとの雪　葵道

冬、吟　江戸日埜

散のこる花ふるし旅路うふ　志友

落葉して松の声のみ残りけり　其陶

梅の息つく枝迫屋そそぐ　買雪

冬、吟　琉球中山國府

日のもとや軒さらふる花の且　顧雲堂

冬、吟　伊丹

炉を明て雪ゆきものたりうふ　百遅

よろしの奥や本の風の乱川　菊潭

流れ切手島の嵯峨の竹いろ　雲卿

、　江戸

うぶ芦さうぶてりひる田舟　耳谷

冬吟

津輕　肥前

鳴り止ハやうて霜夜の破れかな　呉江

酔ひめや少く向ふ月庵　文塘

摂灘　西宮

城近く霍もありけり雪の朝　桃舎

大根を引て力をつくしけり　蟻東

琵琶おしさ

須磨の泊りや

ゆく秋

伊丹　橘井敬写

且書

雀卵写

ふるの
ふるへ
静かり
暮ふ

浪花
じ江

雪中の鮒膾に箸をそゝ〳〵雷の
間の柱ゝ冷をとりゝゼて柏屋う奥
二階にて一巻もの白を催す

寒月や松の梢に見て包る　蘭廼
乃ゆゝ落す鳥のあの声　紫暁

三ゝひあすの首途の和哥たのむ
昔めく物の源のゆくゑ 知
家つゝんぬ猫の妻ゝひ
いゝおうゝ宝引の夜 晩
ちゝゝと雪ふる島の人通り
者共書つゝもちる外世うつたゝ 知

屋敷のゆ形面物ゝ求合ゝ 晩
雪井静へゝうゝ日蝕 知
はゝゝ縛をはゝゝの身のゝゝ 晩
ありてしのつゝめんをゝゝ 知
組踊ゝうゝ松ゝゝ晩ゝ 晩
月入る後の暑ゝ吉ゝ 知

きめ〳〵の加賀のうしろ姿柳　曉
鴨長の逆沢蛙なてつうう　如
人癖を庚申の會のあり　曉
よけ〳〵の茶碗の色よし　如
古屋のもといつて山吹ちやこま　丶
思もらしやとゆうう黒髪　曉

始まる乳筐の伽羅も廻る日や　如
ひつ〳〵〳〵袖のうら風　曉
鴨の子のたさうう藻汐少　如
蒸〳〵〳〵〳〵枝木を解　曉
十貫を人歩〳〵ひうたこを渉　如
声〳〵おう〳〵武士のやうう　曉

[illegible]の[illegible]の[illegible]行[illegible]と如

[illegible]しの[illegible]情[illegible]嶮[illegible]の秋[illegible]哉

鮎[illegible]や[illegible]は[illegible]穂花如

[illegible]そ[illegible]も[illegible]焼飯哉

大方[illegible]宮[illegible]て

昊[illegible]北日[illegible]船状如

改元の文字[illegible]世[illegible]

霍の雌雄乃ひ[illegible]を拾ふ哉

立つ[illegible]儒やは[illegible]

塊を神[illegible]神表翅

むら〳〵秀郷ゐ弓矢の業さうの宮ゐり

数のたうゑ植ひきし〳〵ちかうと〳〵俵とうまもの

ありしそのかさ面おいゆるまちのさよ俵〳〵

ゐうのかりうをもりて京の雑色乃

ゆ〳〵の業さ業つ人多ゐをくる　湖南　菊二

ゆ〳〵ゐ里杜鵑雑水のよう〳〵俵